

各 位

「少子化の見通しに関する専門家調査」のお願い

平成 13 年 7 月 16 日

拝啓

盛夏の候、先生におかれましてはますます御健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、「少子化に関する家族・労働政策の影響と少子化の見通しに関する研究：社会経済モデル班（代表：中央大学教授 大淵寛）」では、厚生労働省の政策科学研究推進事業（平成 11 年～平成 13 年）の一環として、これまで出生率低下の要因分析や出生力の見通しに関する調査研究を行なってまいりました。その中で、専門家の皆様が今後の日本の経済社会環境、出生力や家族形成についてどのような見通しをお持ちなのかをとりまとめる必要性を強く認識するにいたりしました。

そこで、この度、研究班メンバーを中心とした「少子化研究会」を立ち上げ、専門家調査を実施することとなりました。この専門家調査は、人口学、経済学、家族社会学、公衆衛生学を中心とした種々の専門領域で活躍されている先生方を対象として実施するものです。調査の趣旨を十分ご理解いただき、調査票に回答をご記入の上ご返送いただければ幸いです。

ご記入いただいた内容は株式会社アジュールによってすべて統計的に処理され、調査結果は統計数字の形で発表されますので、一人一人のご回答が他に漏れることは決してありません。とりまとめられた結果は厚生労働行政をはじめ、少子化の見通しに関する研究や政策に広く活用されることとなります。また、ご協力いただいた方の中で、ご希望の方には個票データをお使いいただけるようにする予定です。ご多忙のところ誠に恐縮ですが、ぜひとも調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。

敬具

少 子 化 研 究 会

代表者：中央大学経済学部教授 大淵 寛

（厚生労働省政策科学研究「少子化に関する家族・
労働政策の影響と少子化の見通しに関する研究」
社会経済モデル研究班）

事務局：〒192-0393 八王子市東中野 742-1

中央大学経済学部（和田光平研究室 21018 号室）

TEL 0426-74-3429

E-mail wada@tamacc.chuo-u.ac.jp

少子化の見通しに関する専門家調査

平成 13 年 7 月 16 日
(調査企画) 少 子 化 研 究 会
(研究助成) 厚 生 労 働 省
(調査実施) 株式会社 アジュール

ご記入に際してのお願い

- この調査票は人口、経済、家族、公衆衛生などの研究に関わりの深い、**専門家の皆様**にお答えいただくものです。
- ご記入は、鉛筆または黒や青のボールペンなどをお願いいたします。
- 回答をはじめる前に、「少子化」についての用語解説をお読みください。
- 質問番号順にお答え下さい。
- お答えは、あてはまる回答についている数字を○で囲んでいただく場合と、数字を記入していただく場合があります。
- ご記入が終わりましたら、もう一度、回答漏れがないかどうかお確かめください。
- **この調査票は統計目的以外には使用いたしません。**

ご回答いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、
7月31日(火)までにご投かん下さい。

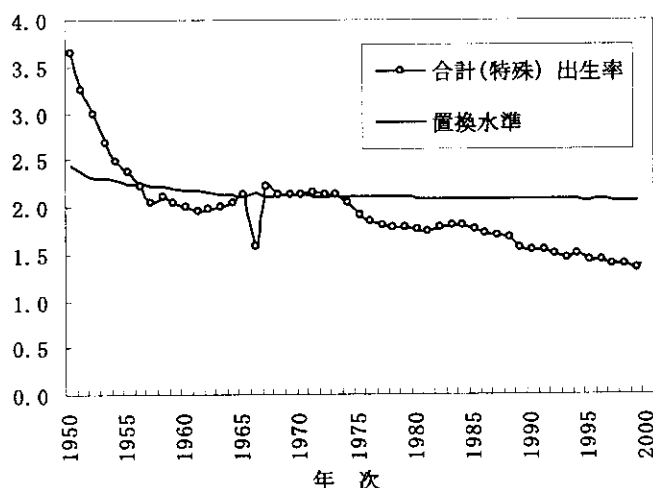
ご回答をはじめの前に、下記の「少子化」についての用語解説をお読み下さい。

「少子化」とは—

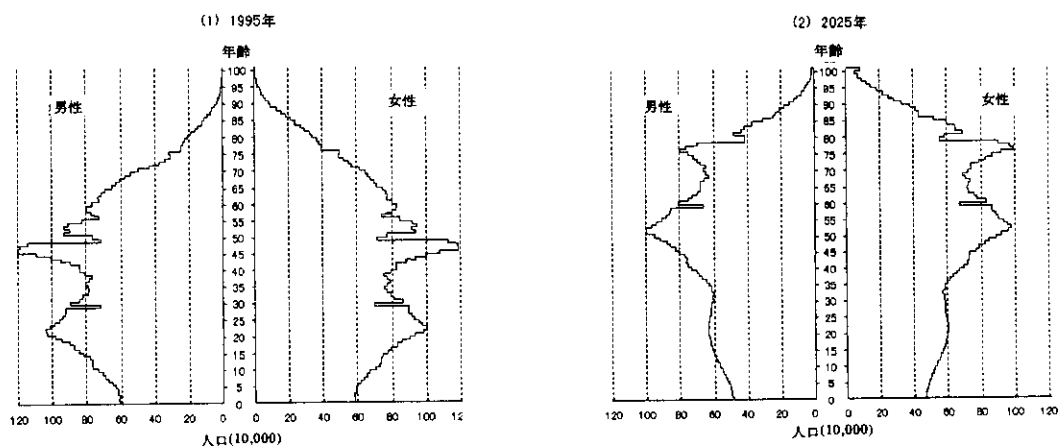
この調査では、「少子化」という言葉を、以下のような人口学的メカニズムの表現として用います。

合計(特殊)出生率(total fertility rate (TFR))が、人口を維持するのに必要な水準(置換水準)を相当期間下回る状況を「少子化」と定義します。

日本では、1970年代半ば以降、この「少子化」現象が続いており、その結果「人口高齢化」が進み、まもなく「人口減少」が始まります。このような社会を「少子高齢化社会」と呼ぶことにします。



合計(特殊)出生率と置換水準の推移
(資料) 国立社会保障・人口問題研究所『人口統計資料集 2000』



人口ピラミッドの変化：中位推計
(資料) 国立社会保障・人口問題研究所『日本の将来推計人口』(平成9年1月推計)

I. 「少子高齢化社会」や「少子化の影響」についておたずねします。

問1. あなたは「少子高齢化社会」にどのようなイメージをお持ちですか。最も近い項目を1つ選び、番号に○をつけてください。

1. 明るいイメージ
2. どちらかというとも明るいイメージ
3. どちらかというとも暗いイメージ
4. 暗いイメージ

問2. あなたは「少子化」の趨勢をどのように考えていますか。最も近い項目を1つ選び、番号に○をつけてください。

1. 少子化はいずれ止まり、出生率は回復に向かう
2. 少子化は今後も持続する
3. どちらともいえない

問3. あなたは「少子化対策」をどのように考えていますか。最も近い項目を1つ選び、番号に○をつけてください。

1. 少子化を緩和する対策をとるべきだ
2. 少子化を緩和する対策はとらなくてよい
3. その他（具体的にご記入ください。）

()

問4. 「少子化」が経済や社会にもたらす影響として次のような考え方があります。あなた自身はどのようにお考えでしょうか。下記の a～m のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

経済・社会にもたらす影響	1 そう思う	2 そう思う どちらかというと	3 どちらかという そうは思わない	4 そうは思わない
a. 労働力人口が減少する	1	2	3	4
b. 貯蓄率が下がる	1	2	3	4
c. 経済成長にマイナスの影響がある	1	2	3	4
d. 消費が伸び悩む	1	2	3	4
e. 労働生産性が上がる	1	2	3	4
f. 都市部の過密が解消される	1	2	3	4
g. 環境負荷が低減する	1	2	3	4
h. 技術開発が後退する	1	2	3	4
i. 社会的なインフラ整備が鈍化する	1	2	3	4
j. 地方の過疎化が進む	1	2	3	4
k. 住宅事情が改善される	1	2	3	4
l. 受験競争が緩和される	1	2	3	4
m. 子どもの社会性が低下する	1	2	3	4

Ⅱ. 今後 25 年間の日本の経済・社会状況の見通しについておたずねします。

問5. 以下の各項目に関し、今後 25 年間の趨勢についてあなたの予想に最も近いものを 1 つ選び、番号に○をつけてください。さらに、その予想の確信度を、以下の基準を参考に、「大」「中」「小」から 1 つ選び、番号に○をつけてください。

確 信 度 の 基 準	「大」・・・当該事項に関する専門知識に基づいて判断できる 「中」・・・専門ではないが、一般的な知識から判断できる 「小」・・・判断にあたって十分な根拠を持っていない
----------------------------	--

<記入例>

△ △ △ △ △	今後 25 年間の趨勢予測					確信度		
	低下・減少	やや 低下・減少	変わらない	やや 上昇・増加	上昇・増加	大	中	小
a. ○ ○ ○ ○ ○	1	2	③	4	5	①	2	3

問 5-1

経済状況・社会環境	今後 25 年間の趨勢予測					確信度		
	低下・減少	やや 低下・減少	変わらない	やや 上昇・増加	上昇・増加	大	中	小
a. 実質経済成長率	1	2	3	4	5	1	2	3
b. 完全失業率	1	2	3	4	5	1	2	3
c. 貯蓄率	1	2	3	4	5	1	2	3
d. 育児期間もフルタイム で働く女性	1	2	3	4	5	1	2	3
e. 非正規就業(派遣社員・ フリーター)の女性	1	2	3	4	5	1	2	3
f. 男女賃金格差	1	2	3	4	5	1	2	3
g. 労働時間	1	2	3	4	5	1	2	3
h. 外国人労働者(単純労働)	1	2	3	4	5	1	2	3
i. 外国人労働者(技能労働)	1	2	3	4	5	1	2	3

問 5-2

性・生殖をめぐる環境	今後 25 年間の趨勢予測					確信度		
	減少・弱まる	やや 減少・弱まる	変わらない	やや 増加・強まる	増加・強まる	大	中	小
a. 経口避妊薬（ピル）の使用	1	2	3	4	5	1	2	3
b. 日本人女性の生殖能力	1	2	3	4	5	1	2	3
c. 日本人男性の生殖能力	1	2	3	4	5	1	2	3
d. 体外受精による出産	1	2	3	4	5	1	2	3
e. 男女の産み分け	1	2	3	4	5	1	2	3
f. 10代での出産	1	2	3	4	5	1	2	3

問 5-3

家族規範	今後 25 年間の趨勢予測					確信度		
	弱まる	やや弱まる	変わらない	やや強まる	強まる	大	中	小
a. 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきという考え	1	2	3	4	5	1	2	3
b. 子どもが小さいうちは、母親は育児に専念すべきという考え	1	2	3	4	5	1	2	3
c. 年をとった親は子どもが面倒をみるべきという考え	1	2	3	4	5	1	2	3
d. 男女が一緒に暮らすなら結婚すべきという考え	1	2	3	4	5	1	2	3
e. 子どもは法的に結婚した夫婦の間で生まれるべきという考え	1	2	3	4	5	1	2	3

問 5-4

家族形成の状況	今後 25 年間の趨勢予測					確信度		
	低下・減少	やや 低下・減少	変わらない	やや 上昇・増加	上昇・増加	大	中	小
a. 30～34 歳の女性の未婚率 (2000 年 26.4% ⁽¹⁾)	1	2	3	4	5	1	2	3
b. 離婚率 (2000 年 人口千人当り 2.1 ⁽²⁾)	1	2	3	4	5	1	2	3
c. 同棲の割合 (1997 年 未婚女性の 1.7% ⁽³⁾)	1	2	3	4	5	1	2	3
d. 未婚者のうち、親元で暮らす 者の割合 (1995 年 25-29 歳 男性 61.0%、女性 74.7% ⁽⁴⁾)	1	2	3	4	5	1	2	3
e. 子どもを持たない夫婦の割合 (1997 年 2.7% ⁽⁵⁾)	1	2	3	4	5	1	2	3
f. 第 1 子出産年齢が 35 歳以上 の割合 (1999 年第 1 子出生の 5.8% ⁽²⁾)	1	2	3	4	5	1	2	3
g. 婚外子(非嫡出子)の割合 (1999 年 出生の 1.6% ⁽²⁾)	1	2	3	4	5	1	2	3

(1) 総務省統計局『国勢調査』1%抽出集計結果

(2) 厚生労働省『人口動態統計』

(3) 35 歳未満の未婚女性について (『第 11 回出生動向基本調査』)

(4) 総務省統計局『国勢調査』

(5) 結婚後 15 年以上経過した、妻が 50 歳未満の初婚夫婦について (『第 11 回出生動向基本調査』)

Ⅲ.人口指標の今後の動向についておたずねします。

問6. 以下に挙げた人口指標の将来値について、あなたが予測する数値を記入してください。また、問5と同様、その予測の確信度を「大」「中」「小」から1つ選び、番号に○をつけてください。

問6-1

1985年生まれの女性 (現在15~16歳) についての人口指標	あなたの 予測	確信度			参考値	
		大	中	小	実績	社人研推計 ⁽¹⁾
a. 平均初婚年齢	歳	1	2	3	1945年生まれ 24.2歳	1980年生まれ 27.4歳
b. 生涯未婚率 (50歳時に未婚である女性の割合)	%	1	2	3	1941-5年生まれ 4.6%	1980年生まれ 13.8%
c. 完結出生児数 (50歳まで結婚を継続した女性の平均子ども数)	人	1	2	3	1943-7年生まれ 2.18人	1980年生まれ 1.96人

問6-2

2050年の平均寿命 ⁽²⁾	あなたの 予測	確信度			参考値	
		大	中	小	実績	社人研推計 ⁽¹⁾
a. 男性	年	1	2	3	1999年 77.1年	2050年 79.4年
b. 女性	年	1	2	3	1999年 84.0年	2050年 86.5年

(1) 国立社会保障・人口問題研究所から1997年に公表された将来推計人口(中位推計)において、仮定として用いられた値

(2) 0歳時の平均余命

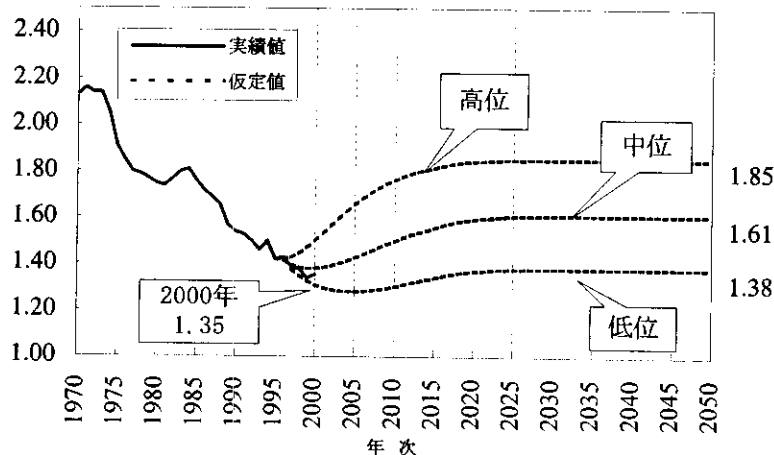
問7. 国立社会保障・人口問題研究所(社人研)の人口推計(中位推計:下図参照)では、結婚・出生動向とその要因の分析から、合計(特殊)出生率が2000年を底として上昇に向かい、一定水準まで回復するという仮定を用いています。あなたはこの仮定についてどう思いますか。あてはまる番号に**1つだけ○**をつけてください。

- | |
|---|
| 1. 合計(特殊)出生率は、おおむね社人研の仮定に沿って推移する
2. いずれ上昇に向かうが、社人研の仮定は時期が早すぎる
3. 上昇するとは考えられないので、社人研の仮定は妥当ではない |
|---|

問8. あなたが仮定値として妥当だと思われる将来の合計(特殊)出生率の値を、下記のそれぞれの年次について、**少なくとも小数点第1位まで具体的にご記入**ください。さらに問5と同様、その予想の**確信度**を、「大」「中」「小」から**1つ選び**、番号に**○**をつけてください。

年次	合計(特殊)出生率の予測値	確信度		
		大	中	小
2000年(実績値)	1.35	/		
a. 2005年		1	2	3
b. 2010年		1	2	3
c. 2025年		1	2	3

(参考) 合計(特殊)出生率



(資料) 厚生労働省『人口動態統計』; 国立社会保障・人口問題研究所『日本の将来推計人口』(平成9年1月推計)

IV. 少子高齢化社会への対応についておたずねします。

問9. 「少子高齢化社会」において、今後行政が取り組むべき課題について、

- ① それぞれの取り組みの**必要性**をお答え下さい。
- ② その取り組みが実現した場合に、少子化の緩和（出生率の上昇）に寄与するかどうかという観点から、その**有効性**を評価してください。

行政が取り組むべき課題	① 行政が取り組む 必要性			② 少子化緩和への 有効性		
	1 非常に必要	2 必要	3 必要ない	1 非常に有効	2 有効	3 有効ではない
a. 児童手当の増額	1	2	3	1	2	3
b. 乳児医療費免除の対象年齢の引き上げ	1	2	3	1	2	3
c. 保育料の公的負担増加	1	2	3	1	2	3
d. 本人償還の奨学金制度の充実による教育費負担軽減	1	2	3	1	2	3
e. 育児休業期間の延長	1	2	3	1	2	3
f. 育児休業期間の所得保障の拡充	1	2	3	1	2	3
g. 父親の育児休業取得の促進	1	2	3	1	2	3
h. 多様な保育施設の増設	1	2	3	1	2	3
i. 保育サービスの充実(延長・乳児・一時保育など)	1	2	3	1	2	3
j. 地域の育児力の強化(育児サークル・学童保育など)	1	2	3	1	2	3
k. 結婚を望む男女に出会いの場を提供する活動支援	1	2	3	1	2	3
l. 夫婦同姓・別姓の選択制の導入	1	2	3	1	2	3
m. 多子家族を優遇する税制の導入	1	2	3	1	2	3
n. 親元で暮らす独身者への課税強化	1	2	3	1	2	3

問10. 「少子高齢化社会」において、今後民間企業や個人が取り組むべき課題について、

- ① それぞれの取り組みの**必要性**をお答え下さい。
 ② その取り組みが実現した場合に、少子化の緩和（出生率の上昇）に寄与するかどうかという観点から、その**有効性**を評価してください。

民間企業や個人が取り組むべき課題	① 民間企業や個人が 取り組む必要性			② 少子化緩和への 有効性		
	1 非常に必要	2 必要	3 必要ない	1 非常に有効	2 有効	3 有効ではない
a. 採用に関する年齢制限の撤廃	1	2	3	1	2	3
b. 出産・子育て後の女性の再雇用の促進	1	2	3	1	2	3
c. 労働時間の短縮	1	2	3	1	2	3
d. 労働時間のフレックスタイム制の促進	1	2	3	1	2	3
e. ワーク・シェアリングの普及	1	2	3	1	2	3
f. 在宅勤務制度の導入	1	2	3	1	2	3
g. 昇進・昇格における男女平等化の促進	1	2	3	1	2	3
h. 結婚・出産退職慣行の撤廃	1	2	3	1	2	3
i. 管理職の意識改革(上司の理解)	1	2	3	1	2	3
j. 育児休業取得の促進	1	2	3	1	2	3
k. 職場内保育所の設置	1	2	3	1	2	3
l. 男性の家事・育児に関する分担意識の向上	1	2	3	1	2	3
m. 女性の社会的責任意識の向上	1	2	3	1	2	3
n. 妊婦や子ども連れを手助けする社会的な雰囲気づくり	1	2	3	1	2	3

問11. 少子高齢化社会への対応に関して、次のような意見があります。下の a~l のそれぞれについて、あなた自身のお考えとして、あてはまる番号に○をつけてください。

少子高齢化社会への対応	1 そう思う	2 どちらかという そう思う	3 どちらかという そうは思わない	4 そうは思わない
a. 女性の労働力参加を進めるべきである	1	2	3	4
b. 外国人労働者の受け入れを進めるべきである	1	2	3	4
c. 高齢者の労働力参加を進めるべきである	1	2	3	4
d. 定年制を廃止すべきである	1	2	3	4
e. 現役世代の公的年金拠出額の負担を減らすべきである	1	2	3	4
f. 引退世代の公的年金給付額を減らすべきである	1	2	3	4
g. 公的年金の支給開始年齢を 65 歳以降に引き上げるべきである	1	2	3	4
h. 公的年金制度を民営化すべきである	1	2	3	4
i. 専業主婦のいる世帯を優遇する税・社会保険制度を見直すべきである	1	2	3	4
j. 医療保険の自己負担分を引き上げるべきである	1	2	3	4
k. シングルマザーを受け入れる社会にすべきである	1	2	3	4
l. 不妊治療や高齢出産に対して生殖技術を積極的に活用すべきである	1	2	3	4

少子化や少子高齢化社会、あるいはこの調査に関してご意見、コメント等がございましたら、下の欄にお書き下さい。今後の調査研究の参考にさせていただきます。


~~~~~

**ご協力ありがとうございました。**

ご回答いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて 7月31日(火)までにご投かん下さい。

なお、ご協力いただいた方の中で、この調査の「調査結果の概要」および個人情報(問12、13)を削除した「個票データ・ファイル」の入手を希望される方は、下記の事項をご記入下さい。ただし「調査結果の概要」と「個票データ・ファイル」の配布は、E-mailに添付する方法のみとさせていただきますのでご了承ください。

|                      |
|----------------------|
| お名前： _____ 所属： _____ |
| E-mail アドレス： _____   |

入手を希望されるものに○をつけてください。

|            |               |
|------------|---------------|
| 1. 調査結果の概要 | 2. 個票データ・ファイル |
|------------|---------------|